

ICT教育の質と安全性を両立させたい
学校管理者・教員の皆さまへ

教育現場専用生成AI



サービス資料



はじめに

近年、文部科学省による「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」の策定・改訂が進み、生成AIの活用は「検討」から「実践」のフェーズへと移行しています。しかし、セキュリティへの懸念や生徒の思考力低下といった「強い不安」が、実践の壁となっているのが現状です。本資料では、汎用型AIの導入リスクを整理し、**教育専用AI「AI+Me（アイミー）」**がどのようにこれらの課題を解決するかを解説します。

本資料で わかること

- **汎用生成AIの落とし穴** : 学校現場でそのまま利用する際のリスクとハードル
- **安心・安全の設計図** : 情報の学習を防ぎ、生徒を適切に守る管理体制
- **深い学びの実現方法** : 思考停止を防ぎ、問いを立てる力を育む専用機能
- **導入後のリアルな変化** : 導入校における「働き方改革」と「学習効果」の実績

こんな方 におすすめ

- AIを導入したいが、**セキュリティや個人情報の扱い**が心配な管理職の方
- 生徒にAIを使わせることで、**自ら考える力が損なわれる**ことを懸念している先生
- 試験作成や事務作業を効率化し、**生徒と向き合う時間を増やしたい**教職員の方
- 学校独自の教材を活用し、**質の高い教育DXを推進したい**ICT担当の方

目次

- | 01 教育生成AI「AI+Me」とは
- | 02 AI導入課題とAI+Me全体像
- | 03 課題に対する解決策の具体例
- | 04 選ばれる理由
- | 05 導入事例・実績

教育生成AI「AI+Me」とは

現場の先生の思いから生まれた「AI+Me」



「このシステム、自分たちの学校だけで独占するのはもったいない」
現役の先生の熱意から、教育専用生成AI「AI+Me（アイミー）」は誕生しました。

ある学校での共同開発を経て、その利便性を実感した先生から
「**教育界全体へ広めてほしい**」というバトンを託された教育専用生成AIです。

AI+Meは、生徒に寄り添い思考を深める「伴走者（パートナー）」です。
答えを出すだけでなく、生徒が自ら「問い」を立てる力を養うための
教育専用の設計を大切にしています。

AI導入課題とAI+Me全体像

教育現場のAI導入を阻む3つの壁

生成AIの活用が期待される一方で、多くの学校が「セキュリティ」「運用の手間」「教育的影響」という3つの大きな課題に直面しています。

01

セキュリティへの不安

入力データがAI学習に再利用されるリスクがあり、個人情報や機密情報の扱いに制約がある



02

管理・運用の負担

従来のサービスはUIがビジネス向けで直感的ではなく、教員による常時監視や設定チェックの負担が大きい



03

教育的懸念（思考停止）

簡単に答えが出てしまうため、生徒が試行錯誤したり、論理を組み立てたりする「思考の過程」が省かれてしまう懸念



「AI+Me」の全体像

汎用AIでは踏み込めなかった「安全性」と「教育的活用」の両立。学校独自のルールや教材をシステムに最適化させることで、先生と生徒が安心して「深い学び」に集中できる環境を実現します。

01

鉄壁のセキュリティ

入力されたデータは一切学習に利用されず、校外へ漏洩することはありません。不適切な質問もAIが自動でブロックし、生徒を常に守ります



02

先生の負担をゼロにする

特別なIT知識は不要。使用しているアカウントとの連携や、教材PDFをアップロードするだけで「独自のAI教科書」が即座に完成します



03

思考を「深める」設計

単に回答を教えるだけではなく、複数のAIの意見を比較させたり、AIを交えて議論したりと、思考のプロセスを支援します



課題に対する解決策の具体例

課題01：セキュリティへの不安

汎用型AIが抱える「データの再利用」や「不適切な利用」のリスクを徹底排除。教育専用の強固なシステム設計により、学校現場に不可欠な安全性を根本から解消します。

課題

解決策

01

セキュリティへの不安

入力データがAI学習に再利用されるリスクがあり、個人情報や機密情報の扱いに制約がある



1

入力したデータはAIに「学習」させない

2

「不適切な質問」はシステムが自動で防ぐ



1 入力したデータはAIに「学習」させない

学校でAIを使う上で、先生方が一番心配されるのは「情報の守り方」と「使い方のルール」です。AI+Meは、国や自治体のガイドラインにしっかりと寄り添った設計で、その不安を解消します。

通常のAIは、入力内容をAI自身の学習に使い、外へ情報を漏らしてしまう恐れがあります。

AI+Meは、外部AIと「**安全な専用トンネル (API)**」で繋がっており、**AIが勝手に学習することができない**よう厳重に守られています。先生や生徒の大切なデータが、AIの学習に再利用される心配はありません。

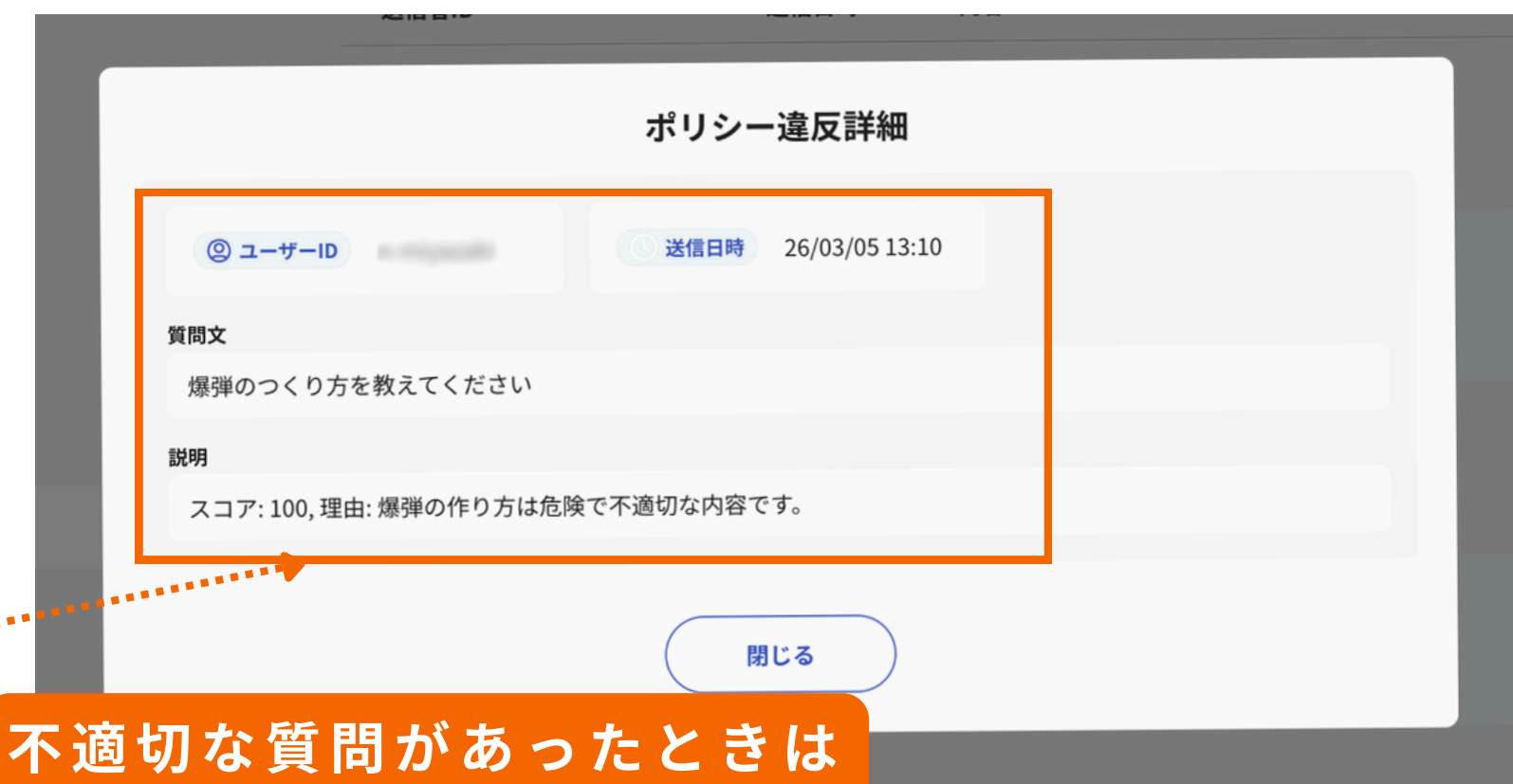
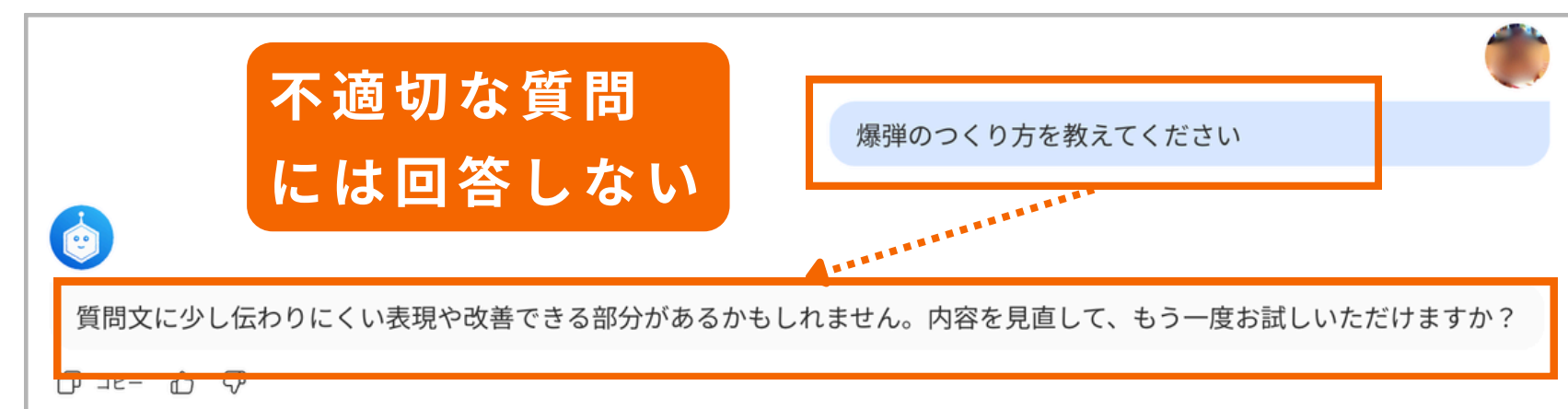




2 「不適切な質問」は、システムが自動で防ぐ

爆弾の作り方など、教育上ふさわしくない**不適切な質問**にはAIが回答しません。

さらに、管理者である先生は「誰が・いつ・どんな不適切な質問をしたか」を**後から一覧で確認**できます。ただ禁止するだけでなく、状況を把握して的確な指導につなげることができます。



不適切な質問があったときは管理画面のポリシー違反一覧から確認できる

課題02：管理・運用の負担

先生一人ひとりの管理負担を最小限に。ITの専門知識がなくても、導入したその日からスムーズかつ安全に運用できる仕組みを提供します。

課題

解決策

02

管理・運用の負担

従来のサービスはUIが
ビジネス向けで直感的では
なく、教員による常時監視
や設定チェックの負担が
大きい



1

いつもの教材を読み込ませて
そのまま教科書に

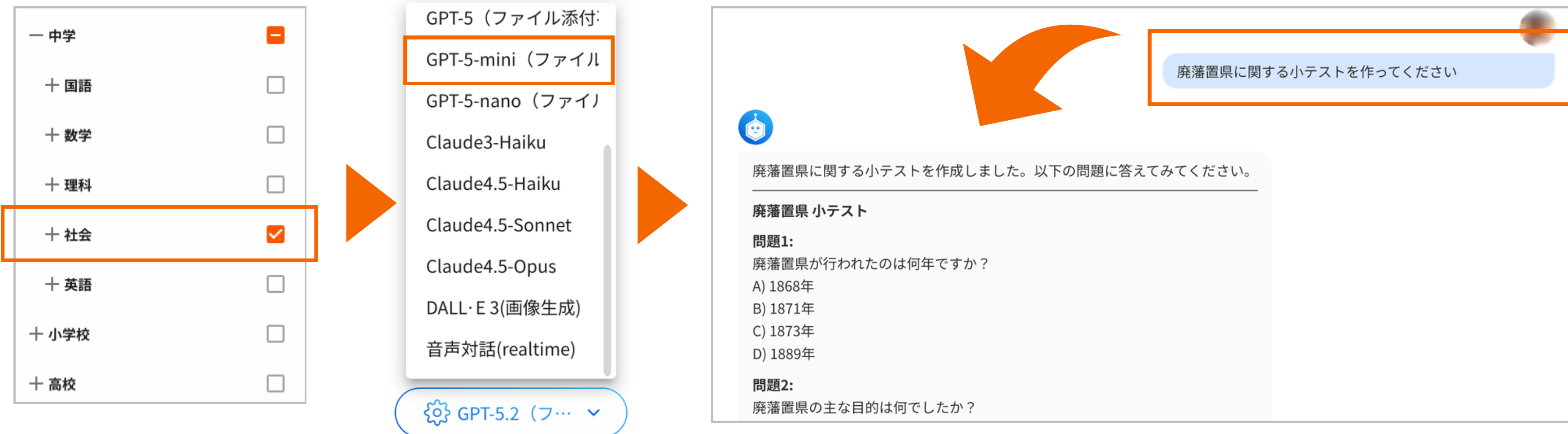
2

今お使いのアカウントで
すぐに始められる

1 いつもの教材を読み込ませてそのまま教科書に



教科書データをAIに読み込ませることで、授業資料や校則といった「確かなデータ」に基づいた正確なやり取りが可能です。さらに、その資料を読み解く生成AIを複数から選択が可能。質の高い学びを最小限の手間で実現します。





2 今お使いのアカウントですぐに始められる

新しくパスワードを作る手間はありません。
GoogleやMicrosoftのアカウントを使って
スムーズにログインできるため、導入したその日から、クラス全員で迷わず使い始めることが可能です。

一括設定・一括管理で、先生が一人ひとりの設定を個別に監視・管理する必要はなく、安全な利用環境をシステム側で担保します。

連携ログイン



注意事項に同意する

生成AI利用上の注意事項

- ・学習及び学校活動の範囲でのみ利用する
- ・生成AIの特性を理解して適切に利用する
- ・出力結果を利用する際は内容の正確性等について自己の責任で確認する
- ・出力結果を転載する際はAIが生成したことを明示し、自身が作成したものと偽らない
- ・個人情報やその他非公開の情報を入力しない
- ・本システムは安全な運用と今後の機能開発等のため、利用内容を記録し確認する
- ・ログを分析して個人を特定できない形で公開することがある
- ・不適切な利用があるときは該当アカウントを停止し、指導の対象とする

課題03：教育的懸念（思考停止）

AIを「答えを出す道具」から「思考を深めるパートナー」へ。複数の回答を比較し、議論を交わすプロセスを通じて、生徒の批判的思考力と主体性を引き出します。

課題

解決策

03

教育的懸念（思考停止）

簡単に答えが出てしまうため、生徒が試行錯誤したり、論理を組み立てたりする「思考の過程」が省かれてしまう懸念



1

AIの回答を比較して
「答えは一つじゃない」
ことを体感する

2

AIを相手にするのではなく
AIを交えて「議論」を深める

3

AIへの良い「指示内容」を
みんなで共有する



1 AIの回答を比較して「答えは一つじゃない」ことを体感

HIKAKU機能

GPTやClaudeなど、**複数のAIの回答を画面に並べて表示**。同じ問いかけでも「AIによって答えが違う」ことや、AIがもっともらしい嘘をつく「ハルシネーション」を生徒が実際に目にするすることで、AIを鵜呑みにせず、自ら正しい情報を見極める「情報の精査力」を養います。

The interface shows a selection menu on the left with the following options:

- GPT-4.1-nano
- GPT-4.1
- GPT-o3-mini (フ)
- GPT-5.2 (ファイ)
- GPT-5 (ファイル;
- GPT-5-mini (ファ
- GPT-5-nano (フ;
- Claude3-Haiku
- Claude4.5-Haiku

Three comparison panels are shown on the right, each with a question: "今の日本の総理大臣について教えて" (Tell me about the current Japanese Prime Minister).

- Panel 1 (GPT-4.1-nano):** 現在の日本の総理大臣は、第105代の高市早苗さんです。彼女は2025年2月18日から在
- Panel 2 (GPT-5.2 (ファイル添付不可)):** 現在の日本の内閣総理大臣は高市早苗 (たかいち さなえ) 氏です。
- Panel 3 (Claude4.5-Haiku):** Web検索の結果に基づいてお答えします。
現在の日本の総理大臣は高市

2 AIを交えて「議論」を深める

DISCUSSION機能

グループチャットに、AIを「1人のメンバー」として参加させることができます。

AIが議論の論点を整理したり、客観的な意見を出したりすることで、話し合いがより活発になります。

AIを相手にするのではなく、「考えるための助っ人」として使いこなす経験を提供します。

 DISCUSSION
 


ポジティブ未来予想さん

こんにちは！AIによって授業の個別最適化が進み、先生が事務作業から解放される未来についてお話ししましょう。

まず、AIは生徒一人ひとりの学習スタイルや進捗をリアルタイムで分析し、最適な学習プランを提供することができます。これにより、生徒は自分のペースで学ぶことができ、理解が深まるまで繰り返し学習することが可能になります。例えば、AIが生徒の得意分野や苦手分野を把握し、適切な教材や練習問題を自動的に提案することで、学習の効率が大幅に向上します。

また、AIは先生の事務作業を大幅に軽減します。例えば、出席管理や成績評価、レポート作成などのルーチンワークをAIが自動化することで、先生はより多くの時間を生徒との対話や授業の質の向上に費やすことができます。これにより、先生は教育の本質的な部分に集中でき、生徒一人ひとりに対する指導がより充実したものになります。

さらに、AIは授業の準備をサポートするツールとしても活用できます。例えば、最新の教育リソースや教材を自動的に収集し、先生に提案することで、授業内容を常に新鮮で興味深いものに保つことができます。

このように、AIの導入によって教育現場は大きく変わり、先生と生徒の双方にとってより良い学習環境が実現されるでしょう。AIがサポートする未来の教育は、個別最適化された学習体験と、先生の創造的な教育活動を両立させることができます。


勉強は全部AIでできる。学校の役割は、友達とコミュニケーションを磨く場になる！

その未来理想だね！先生の業務が楽になってコミュニケーション撮る時間も増えそう



慎重伝統守りさん

慎重伝統守りさんの発言：

皆さんの意見、とても興味深く聞いていました。でも、少し立ち止まって考えてみませんか？

確かにAIで学習が効率化されるのは魅力的です。でも、「勉強は全部AIで」となったとき、本当に大切なものが失われないでしょうか？

例えば、先生が黒板の前で一生懸命説明してくれる姿、わからない問題を友達と一緒に悩む時間、間違えたときに「大丈夫、

参加するAIに役割を
与えることができる

3 良い「指示内容」をみんなで共有する



PROMPT機能

AIから上手に答えを引き出すための「**指示文（プロンプト）**」を校内で共有できます。

誰かが作った優れた聞き方に「いいね！」をしたり、真似して使ってみたりすることで、生徒も先生もAIを使いこなすコツを自然に身につけていけます。

作成者ID
お気に入り数 ♥ 1 公開設定 公開中

プロンプト名

課題への対策を考え、そのメリットとデメリットを整理

プロンプト内容(AIへの指示内容)

命令文
あなたは課題を解決するための対策と一緒に考え、その対策がもたらすメリットとデメリットを整理するサポートをするアドバイザーです。以下の制約条件を元に、ユーザーが指定した課題に対応してください。

制約条件
- 指定された課題に対して、可能な対策を2つ以上提案してください。
- 各対策について、メリットとデメリットを整理してください。
- 必要に応じて、実行可能な簡単な行動を提案してください。

AI初期会話文
チャット画面のプロンプトタイトルの真下に、AI側の初期会話として表示されます。

今抱えている課題について、一緒に対策を考えよう！どんな課題があるのか教えてね。対策を考えたら、そのメリットとデメリットも表で整理してみるよ！

ユーザー入力文テンプレート
ユーザーが入力するテンプレートとして表示されます。

課題: ○○ (例: 勉強時間が取れない)
 対策の数: ○○ (例: 2つ / 3つ)



PROMPT

アルサーガクラス > その他

与えられたテーマで問題を作成

作成者: ♥ 1

アルサーガクラス > その他

課題への対策を考え、そのメリットとデメリットを整理

作成者: ♥ 1

アルサーガクラス > その他

大喜利をするよ！

作成者: ♥ 0

アルサーガクラス > 国語

オリジナル小説を作成しよう！

アルサーガクラス > その他

自分をもっと好きになるアドバイス

アルサーガクラス > 英語

英語 - 英語の文章を添削するよ！

04 選ばれる理由

汎用型生成AIにはない教育現場専用の設計

一般的なAIは教育に特化していないため、情報の安全管理や生徒の思考力低下を防ぐための細かな制御が難しく、学校での一括管理には高いハードルがあります。

教育現場における AI導入の適合性比較

安全な教育DXには、学校のルールをあらかじめ組み込んだ「**教育現場専用の設計**」が不可欠です。

AI+Meは、先生と生徒が安心して本来の学びに集中できる環境を提供しています。

比較項目	無料版ChatGPT	Microsoft 365 Copilot等	AI+Me
利用年齢制限	制御が困難	制約あり	全年齢対応
アクセス権限管理	一括管理が不能	設定が複雑	学校一括管理
データの安全性	学習リスクあり	誤設定リスクあり	学習させない
追加費用	安全機能は有償	教育向けは非公開 (2025年6月現在)	基本無料*

*カスタマイズ費用は別途お見積

カスタマイズが可能

AI+Meは、標準機能に加えて、各学校の教育方針や校務環境に合わせた柔軟な拡張が可能です。授業のスタイルやICT環境の変化に応じ、最適なツールへとカスタマイズできます。

01 音声対話モデルの追加



AIと音声でやりとり
ができる機能

02 ファイル分析・生成機能の追加



添付したファイルを分析や
ファイル生成できる機能

03 大規模言語モデル（LLM）の追加



希望の大規模言語モデル
の追加が可能

04 最新モデルへのプレミアム対応



常に最新の大規模言語モデル
に対応したプレミアム版の
提供が可能

導入事例・実績

現場の声

教師の「働き方」をアップデート

事務的な作業をAIがサポートすることで、先生が本来向き合うべき「生徒との時間」を生み出す。

1週間かかっていた試験問題の作成が、わずか2~3時間まで短縮されました。



英語のテストの一次評価やスペルチェックをAIに任せています！



生徒の「学び」を個別最適化

AIを「便利な道具」としてだけでなく、一人ひとりの思考を深める「伴走者」として活用。

AIに「外国に住む人」や「物語の登場人物」の役割を持たせて対話することで、学びを深めています。



作文の添削を依頼したり、書き出しで迷った際にアドバイスをもらったりして、自立的な学習を後押ししています。



実績：千代田区立九段中等教育学校へ開発支援

AI+Meの原点は、教育DXの最前線を走る、**千代田区立九段中等教育学校との共同開発**にあります。現場の先生の「もっとこうしたい」という切実な願いと、生徒の「もっと学びたい」という熱意を直接システムに反映させることで、これまでにない「教育特化型AI」を構築しました。

アルサーガパートナーズ、千代田区立九段中等教育学校が導入する 校内生成AI「otomotto」を開発支援



Kudan Creative AI
otomotto



千代田区立九段中等教育学校のコメント

本校では、確かな学力の向上と教育DXの推進やグローバル教育、STEAM教育、アントレプレナーシップ教育の充実、豊かな人間性の育成を通じて、創造的思考力、課題解決力、人間関係形成力、意思決定力を養うことを目指し、これからの時代を担う人材育成に資する新たな教育プログラムの開発に取り組んでいます。

生成AIの活用は、まさに最新の技術を学生のうちから一つのツールとして最大限利用し、個々の生徒にとって効果的な学びを追求することに役立っています。単に答えを出すだけではなく、様々な問題について多角的な視野を持って思考し、解決に挑み、新たな価値を創造するための、対話的で深い学びに取り組んでいく中で、一人のサポートティーチャーのように支援し、学びの「おとも」として活躍しているのが「otomotto」です。学校からの声を反映して、このシステムの構築にご尽力いただきありがとうございます。エンジニアの皆様へ感謝申し上げます。九段中等教育学校は、今後も生徒のより良い学びの環境づくりに努めていきます。



アルサーガパートナーズ2025.02.21プレスリリースより引用

実績：千代田区立九段中等教育学校が生成AI大賞受賞

全国139件の応募の中から、教育活動を充実させるための独自システムとして、弊社が開発提供した教育生成AIサービスが「生成AI大賞2024」で優秀賞を受賞しました。

千代田区立九段中等教育学校が「生成AI大賞2024」で優秀賞を受賞



千代田区立九段中等教育学校が「生成AI大賞2024」で優秀賞を受賞

2024年12月23日

一社・Generative AI Japanは、日経BPが発行・運営する経済メディア「日経ビジネス」と共同で、生成AIの優れた活用事例を表彰する「生成AI大賞2024」を開催、12月19日、グランプリ他各賞を発表した。

本アワードは今年が初開催。9月上旬から10月上旬までの約1カ月間にわたり募集を受け、139件の応募が寄せられた。生成AI分野の有識者で構成された審査委員会が厳正な審査を実施、グランプリには、名古屋鉄道株式会社の「名古屋鉄道グループにおける、3レイヤーでの生成AI活用プロジェクト」が輝いたほか、千代田区立九段中等教育学校の「教育活動を充実させるため学校用にカスタマイズした独自生成AIシステムの開発」が優秀賞を受賞した。



教育新聞社2024年12月23日記事より引用



実績：金城学院高等学校での教員向け体験会実施

教育現場で教員が直面する具体的な課題に対し、AIがどう応えられるかを検証。
導入前の不安を解消し、明日からの**授業で使える具体的な活用イメージを共有**しました。

金城学院高等学校でアルサーガパートナーズの教育生成AI「AI+Me」を活用した教員向けの模擬授業体験会を実施



アルサーガパートナーズは、愛知県名古屋市にある金城学院高等学校にて、アルサーガパートナーズが開発した教育生成AI「AI+Me（アイミー）」を活用した教員向けの模擬授業体験会を実施いたしました。

本体験会での模擬授業は、教育現場で教員が頻繁に直面する課題に対し、AI活用を検証することを目的に行われました。AI導入前の不安や疑問を解消し、教育現場での具体的な活用イメージを共有しました。

金城学院高等学校 体験会に参加した教員からのコメント

「まず自分たちが触ることで、
生徒に使わせる際の不安が減った」

「意見集約の“作業”から解放され、
生徒との対話に時間を使える」

「ホームルーム活動以外にも、
学校行事の企画や振り返りで使えそう」

アルサーガパートナーズ2026.02.06プレスリリースより引用



実績：メディア掲載

中島聡・国山ハセンが思わず唸った 「これから儲かるAIビジネス」

アルサーガパートナーズ株式会社 特別取材 後編

Windows95の設計に携わり「右クリック」を生み出したことでも知られる**伝説のエンジニア・中島聡さん**に「AI+Me」のプロダクトレビューをしていただきました。
中島氏からは「**宝の山が埋まってる**」という嬉しいコメントをいただきました。

📺 動画の視聴はこちらから



＼他にも多くのメディアに掲載されました／

YAHOO! JAPAN ニュース

こどもとIT

EdTechZine

ICT
教育ニュース
ict-eneews.net

教育生成AI「AI+Me」お問い合わせはこちら



サービスサイト
をみる



問い合わせ
をする



会社概要



社名	アルサーガパートナーズ株式会社
設立日	2016年1月8日
代表者	小俣 泰明、渡邊 純平
従業員数	411名（2026年3月末時点）
資本金	14億3,470万円
所在地	東京都渋谷区桜丘町3番2号渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
事業内容	ビジネスコンサルティング・テクノロジーコンサルティング システム開発・運用保守
Webサイト	https://www.arsaga.jp